

ありがとうございました。

五十嵐智洋委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位6番、議席番号12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 1点目は、地場産業振興センターの支援事業についてお尋ねをいたします。

今年度予算では運営費補助金として7,853万4,000円の計上がございます。それで今、私の平成27年度の事業報告等もろもろの書類を持ってるんですけども、事業報告の中に今後の市からの運営費補助金については一般財団法人として一層の減額に努めることが求められると。収益事業、施設営業事業についても維持管理の削減、施設利用率の向上を目指すというふうなことにうたわれております。当然だと思います。

そこで、まず第1点目、27、28年度の設備更新改修状況費用について産業参事にお伺いします。この事業報告の中で27年度地場産業事業報告6、施設営業事業ではタス内団体の調整会議を隔月行っているとありますけども、こういう維持管理等についても当然話し合ってると思いますが、会議内容というのはどのようなものですか。

○蒲生光男委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 お答えいたします。

施設営業事業ということで、タスの所有者及び運営者、4団体ございますが、ここで定期的に調整会議を行っております。4団体と申しますのは、1つは長井商工会議所、2つは山形県信用保証協会長井支店、3つ目にタスパークホテル、そして4つ目が地場産業振興センターということでございます。

この4団体におきまして、施設の修繕である

とか、その協議を行っていると。年間の設備の改修計画に基づきまして修繕などを実施するわけですが、計画にない突発的なものであるとか、そういった改修内容や時期、費用区分などそういった情報を共有しながら協議をしているということでございます。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 わかりました。

この27年度事業報告の中に防災センターというのがあって、館内の空調設備中央監視装置の更新を行った。ほかカメラ、AED設置等ということであるんです。これはその4団体で案分したわけじゃなくて、地場産業振興センターの必要なものであったので地場産業振興センターの予算でやったということですか。

○蒲生光男委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 これは4団体で案分して行っております。27年度は、空調設備の中央監視装置というのが老朽化して空調管理に支障を来したということで更新を行っております。この経費は、結構高額なものですから、リースの対応として、負担割合は従前からの取り決めにあります所有面積案分で行っていると。

それから防犯カメラについても同様の負担比率ということですよ。

あともう一つ、AEDについてですが、これは信用保証協会のほうでは既に設置があったということで、信用保証協会を除いた案分比率で負担しているというふうなことでございまして。以上です。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 わかりました。

タスビルは、もう31年目ぐらいですかね。建設されてからありまして、鉄筋コンクリート、立派な建物ですから、まだまだこれは使用に耐えると思うんですけども、やはり10年、20年、30年というようなことでだんだんたってきますと、もう節目節目である程度の修繕行わなくち

やならない。これに以前の予算書等見ますと、平成19年には修繕費補助で800万円、平成20年にも修繕費補助金ということで、この運営費補助金のほかに支出されているんですね。これはやっぱり20年目ぐらいなので、あちこち不具合が出てきたんだらうと思いますけども、この事業報告の中に来年度以降の冷温水発生機、火災報知の更新、老朽化設備の更新、改修が必要で、計画的な改修を行うための調整というふうにあるんですけども、27年度の事業報告の改修は案分で行われたということなんですけども、その辺は具体的に今々の設備更新についてどのように検討なさってるかお答え願います。

○蒲生光男委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 今の委員おっしゃられましたように、築後30年以上たってるというふうなことで、特に機械とか電気設備、その大きなものの老朽化が目立ってきております。その中でも特にこの報告にも書いてあるとおり、冷温水発生機であるとか、高圧受電設備関係、こういった更新が必要になってきておりまして、これらは平成27年度に更新予算化必要設備として上がっておりますけども、いずれも高額で数千万円単位の更新費用がかかるというようなことから計画的な改修を行うということで、年次計画などの調整が必要であらうというふうになったものであります。

そこで更新を行うに当たって専門的な知見が必要となるということから、今年度タスを設計しておりました設計事務所のほうに機械であるとか電気設備を含めたタスビルの診断業務をこの4団体で協議をお願いしているというところでございます。その中で今後5年程度の改修計画を策定していくというふうに予定しておりますが、その報告書をもとにしまして、次年度の予算などもございますので、関係団体で調整していきたいというふうに考えております。

なお、改修に係る費用については、共用部分

については基本的に所有面積案分ということで負担することになるだろうというふうに考えておるところでございます。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 設計事務所をお願いをして5年程度の改修計画をしたいと。まだそれはこれからの話だと思うんですけども、相当の高額な、いろんなものを含めれば当然軽く億を超えるような修繕費用が見込まれるのではないかというふうなことで今答えがありました。

4団体と言いますけども、実際にそういう費用負担するのは3団体かなと私は思うんですね。商工会議所とタスパークホテルというのは一緒ですから、要するに商工会議所が45.42%、地場産、長井市が53.59%、保証協会が0.99%出すんだと、これは約束事なんですね。

ところがなかなか今後これが守られていくかというようなこと、これは27年の12月にも市長とちょっと論議をしたことがあるんですけども、商工会議所からは要望ということで、タスビルの運営及び設備老朽化等に対する支援ということでありまして、これは長井市のシンボルの拠点としてその施設をだから位置づけを明確にしてほしいと、もう一つはタスビルの設備老朽化に伴う大規模改修を長井市に支援していただけないかというふうなことが今来てるんですよ。そういうふうになかなかタスパークホテルの経営も厳しいので、大規模改修の費用が厳しいので、長井市に支援してほしいという要望書が2年続けて、これ議会宛てにもしていただいております。

地場産業振興センターの施設をお貸ししてタスパークホテルが営業なさっていて、市民の方ももう1年のうちにタスに行かなかったなんて人もいらっしやらないと思いますし、私も何度もタスでの開催される会議、飲食を伴うものなどにも出させていただいております。どんどんと繁盛していただければ長井市の施設を使っ

て賃貸料なども入ってきますし、お互いによくなるわけですが、なかなか厳しいのかなというふうに思っております。

昨年11月に13市の議長会が長井市で、当番ですね、これ持ち回りなものですからあったんです。それで13年に1回の行事ですので、事務局も一生懸命準備に当たって、会場となるタスパークホテルとも長時間かけて協議をして、中身について協議して、実際当日はしたわけなんですけども、前年は寒河江市で行われて、私も行ったんですけども、大変おもてなしをいただきました。夕食の宴会の費用というのは、結構な金額、予算を使って、予算化をして、かつ交渉して綿密に打ち合わせて、よそから来ていただける議長、副議長、事務局の方をもてなそうということだったんですけども、残念ながら飲食、料理の内容は季節感、郷土色、手づくり感がなくて、少し費用にしてはどうかというふうに思ったところでした。少し長井市の面目が潰れたとは、どういうふうにおとりになってお帰りになったかですけども、逆に慰められて、こんなもんだごてみたいない感じででもあるんですよ。

市長ももう何回もことしになってからもタスパで行われる長井市で主催する行事などにもですけど、やはり少し営業努力していただいて頑張っていたかかないと厳しいかなと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 なかなか申し上げにくいことなんですけど、今から七、八年ぐらい前でしょうかね、うわさではやっぱりホテルの経営が厳しいので給与の高い腕のいい料理長などは解雇して、そのかわり冷凍食品とかレトルトを使ってコスト下げたんじゃないかといううわさがありました。確かにそのあたりからかなり料理のほうがお粗末になったなという感じはしてるんですが、やっぱりと同時に、お客さんが以前、10年ぐら

い前は県のほうにも働きかけたり、いろんなところに働きかけて地域内だけでなく外からもいろんな会合していただいたんですが、もうここ10年ぐらいほとんどないんですよね。私も関連とか、やっぱり議長会なんかは、これは長井市で引っ張ってくるわけですよね。今度うちも山形県の市長会を長井でというふうに言われてますが、非常に心配です、五十嵐委員おっしゃるように。

したがいまして、お願いするときは自分たちの知恵として、もう最初から注文つけるんですね、これとこれを出してくださいと。あとは特に女性の皆さんの会はなさってるようですが、試食会するんですね。何を出すか試食会して、それでやってるといような知恵はあるようです。例えば商工会議所が外からお客様招いての懇親会なんかですと、えっ、こんなもの出せるんですかみたいのがいっぱい出てくるんですね。普通にやるといつもの料理なんですよ。ですからやる能力はあると思うんですよね。これからぜひお願いして、もっとおいしくて市民あるいはお客さんを喜んでいただくものということでお願いしていきたいと思います。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 料理の話までさせて、大変恐縮しております。

やはり民間企業とはいえ長井市と密接不可分な関係にあるわけなんですよね。例えばこれから修繕費を出せませんよと、もし長井市やってくださいということは自分たちの責任をある程度放棄をして市の税金で直してくださいということですから、これはそんな簡単な話じゃないと私は思うんです。

3月の中ごろですか、7日でしたっけ、国際ソプロチミストのワインパーティーというのにご案内いただきましたので、国際貢献されている団体ですからと思って、議員も何名か参加させていただきました。やっぱり試食会をやった

んだということで、エビがたくさん出てきて、何品も何品も、あら、またエビか、またエビか、またエビかなんて、6品ぐらいエビが出てきて、びっくりしました。大変おいしかったです。

昨年商工会議所の会頭が、残念ながら横澤会頭がお亡くなりになりまして、残任期間が終えまして、今度新しく加藤会頭、会頭を引き受けてくださいました。副会頭3名体制ということで、新たな体制で運営していくんだという決意を示されて、大変結構だったと思うんですが、同時に、タスパークホテルの経営者としても、会頭は社長のような立場になれるんでありましょうし、県の制度資金なども使って返済なんかありましたり、厳しい立場かなというふうに思います。ですからリーダーシップをとられて、いろんな商工会議所の運営はメインでしょうけども、タスパークホテルの経営にも改善をするべき立場になられたと思うんですけども、少しその点についてはどうかなと私、思います。余りそちらのほうには一生懸命じゃないのかなというふうに、実際お話ししますとそういったこともありますし、やはり少し認識も変えていただきたいなというふうに思います。

2年続けて要望書いただいたわけですが、これ毎年また要望書上がると思うんですが、市長は今その要望書に対してどのようにお答えになってるんでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 商工会議所さんには、例えば中心市街地活性化の協議会でしたり、あるいは私どもの雇用創造とか、あるいは特に製造業関係の補助事業でもたくさん受けていただいてご協力いただいております。

タスのことについてもいろいろ要望いただいておりますが、私どものほうから申し上げてるのは、これは単独で補助するというのは難しいです。したがって、平成26年度に経産省

の補助を受けましてタス再生整備事業に向けた魅力発掘調査事業というのを、1,000万円の事業ですね、私どもで見つけてきて、採択して、すぐ会議所さんをお願いしたと。それに基づいてやりませんか。中心市街地活性化の計画の中にもタスの再生事業というのは入ってるんですね。したがって、経済産業省ですとか、さまざまな省庁の補助を受けられる可能性が非常に高いと。なおかつこの経産省の発掘事業というの、魅力アップのためですが、やったところについてはホテル部分の補助を受けてる事例が実はあると。だからこれやりましょうというお話をしているんですが、会議所さんのほうではそういったことではなくて、単にちょっと空調が古くなって更新しなきゃいけないと。これひいては2億円ぐらいかかるから、1億円は地場産で持ってくださいと。自分たちの1億円の持ち分について支援してくださいという感じの形なんですね。

したがって、もうやっぱりホテルは、私も素人ですからあんまり言えないんですが、やっぱり20年、せめて30年で内装も含めて変えないとお客さんどんどん離れていくと。現にあそこの特にエアコンなどは独立じゃないんだそうですね。したがって、エアコンのききが悪かったり、暖房も各部屋きちんとかかないとかということの話などもきいてますんで、そういったところをもう少し、社員は頑張ってるんですけど、経営陣がなかなか責任ある立場でかかわってないので、そこが課題なんではないかなと。今後ともいろいろ協議してお願いしていきたいと思っています。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 今、市長おっしゃるとおり、やはり長井市でいろんなことを投げかけても少し考え違うようだと。やはりこれは今後、調整をして、市長も忙しいでしょうからどなたかに、責任ある立場の副市長とかに特命と

ということでお願いをして調整図るべきではないかと思います。でないとはやはり観光、交流など、これを進めるに当たって、市外、県外からのお客様をやはりあそこでもてなしたり、お泊めしたりして、長井の玄関口みたいなところですから、最初の第一印象が悪いと何だということになると思うんですね。ですからその辺をしっかりやはりお互い商工会議所にも経営陣にも認識していただいて、自分たちにもまたはね返ってくるわけで、商売にもですね、そういったことで今後しっかりとやはり話し合わないといけませんので、腹を割ってそういった機会をどんどん設けていただきたいというように思います。

2点目の職員厚生事業についてに移ります。

総務管理費に職員厚生事業ということで340万円計上されております。主に健康診断ですね、補助を出すようなことなんでしょうかね。総務参事に伺いますけれども、職員のやっぱり健康管理をしっかりして職務に精励していただきたいと思いますが、健康診断受診などは皆さん100%なさってるんですか。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務参事。

○齋藤環樹総務参事 まず職員の健康診断、基本となる健康診断につきましては、集団あるいは人間ドック、派遣職員の派遣先での実施を含めて基本となる健康診断そのものについては全員受診している状況でございます。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 私もサラリーマンを経験しましたので、毎年私のところだと南陽保健センターに行って、半日ぐらいかけていろんな健康診断を受けるんですね。あとオプションもありまして、別に自分でお金を出してさせていただくのもあって、何日かしますとその結果が送られてきて、ここちょっとひっかかったぞとか、胃カメラ飲んでなければ胃カメラ飲みなさいとか、お酒たくさん飲むので肝機能悪け

ればガンマGTPとか云々が来まして、要再検でもう一度自分で医療機関に行って診てもらいなさいというふうに来る方も何割かいらっしゃるんですね。特にメタボだ、成人習慣病だということで、そうすると再検が来た職員に対しては、それチェック、またその後の指導というのは行ってますか。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務参事。

○齋藤環樹総務参事 お答えいたします。

まず要再検者、健康診断の結果が実施機関から総務課を通じて職員のほうに通知するわけですが、要再検者判定基準によりまして、具体的には要指導、要精検、異常ありと判定された者が該当するようでございますけれども、これ27年度の結果を見ますと要再検者の割合は結構多くて、受診者の6割弱ということになっております。こういった状況も踏まえまして、所管である総務課はもちろんのことなんですけれども、長井市に労働安全衛生委員会ございます。職員の健康障害防止を目的として設置しておりますけれども、異常が認められた場合、軽度の場合には注意の喚起、要再検の場合は医療機関の受診を促すため労働安全委員会等も通じながら受診の啓発、呼びかけなどの取り組みを行っているところでございます。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 ただいまの要再検者の割合も多いということですので、とにかく健康第一ですからそういった指導を今後とも欠かさずお願いしたいというふうに思います。

3月議会、今も3月議会なんですけれども、多くの管理職の方がインフルエンザに罹患をされまして、インフルエンザにかかりますと1週間出勤停止というんですか、当然そういう措置をされているということで、感染しないようにですね。大分ひどかったんですよ。一般質問のときなど一番ピークだったのかなと思ひまして、大分マスクをかけてる方がいっぱいいらっしゃる

って、何か学校で言えば学級閉鎖ぐらいの猛威を振るったのかなと思い、やっと聞いていられて、その次の日からお休みだったという方も大分判こ押してましたので、そこでインフルエンザの予防接種を受けていても罹患する場合ももちろんあります。ただ、ある一定の効果はあるということで予防接種あるわけなんですけども、職員の方のインフルエンザの予防接種の接種率どれぐらいですか。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務参事。

○齋藤環樹総務参事 インフルエンザの予防接種につきましては、まず職員ということでございますが、山形県市町村職員共済組合の制度といたしまして予防接種1,500円の助成が受けられる制度がございまして、この冬、今年度ですけれども、この制度を利用して予防接種を受けた職員につきましては62名、おおむね22%程度と。ただ、この制度受けなくても予防接種をされた職員もおられるというふうに認識しております。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 もう一度、ちょっと聞き逃しましたので。

市町村の職員の共済の1,500円助成されてやられた方の数とパーセント、もう一回ちょっと。

○蒲生光男委員長 職員の予防接種の接種率を尋ねておりますので、もう少し明確にわかりやすくお答えください。

○齋藤環樹総務参事 接種率22%でございます。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 それでたった22%。

ただ、自費で3,500円とか4,000円で受ける方もいたのではないかというふうな、こんな大ざっぱな今、答弁でしたね。プライバシーの問題もあるかもしれないので、調べられないということですか、全体では。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務参事。

○齋藤環樹総務参事 共済組合の助成制度を使った職員については把握しておりますと。

ただ、この制度を使わないで個人的に接種した職員もおられます。そこについてはしっかり調査をしたわけではございませんので、明確な数字ということではまだ把握していないというところでございます。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 普通企業ですと、やはりインフルエンザにかかって感染したり発症したりすると仕事にも支障がありますし、そのご本人の健康にも、ご家族にまで及ぶわけですから、大体推奨して、できれば100%していただきたいというふうに推奨している会社も多くあります。私が以前勤めていた社会福祉法人では、100%、入所者にうつしてはいけませんので、入所者もするんですけど、100%ですよ。私は、職員の管理職をしておりまして、お願いする立場にあつて、皆さん快くいただき、もちろん補助も出しますし、ご家族にまで、できれば家族にもぜひしてほしいという。誰ひとりそんなしませんなんていかなかったんですが、長井市役所としてインフルエンザの職員の接種を100%などということは考えてらっしゃらないんですか、総務参事。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務参事。

○齋藤環樹総務参事 お答えいたします。

まず、共済組合のほうにはこういった制度がございましてということで職員に周知は行っております。

こういった予防接種は集団での接種率が高まればより効果があるということで言われておりますので、まずはこの制度を活用してできるだけ全員の職員に受けていただきたいという方向でまずは検討させていただきたいとは考えております。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 包括支援センターとか健康課とか、ご家庭へ訪問したり、お子さんが、赤ちゃんが来たりする部署の方はどうなっ

てますか。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務参事。

○齋藤環樹総務参事 まず一般的に医療や福祉といった分野の事業者では、患者や入所者への罹患の拡大防止のため、さっき委員おっしゃいましたように全額事業主負担のもと職員の予防接種の義務づけを行っているところはあるようでございます。

長井市の職員につきましては、職種によって公費を使ってあらかじめ接種をしているかということでございますと、まだそこまでの制度化は行っていないのではないかと考えております。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 公費を使ってしているか、しるなんては一切言ってくなくて、意識として申し上げてるんであって、子供さんには補助金を出してそれお勧めしてるわけですね。ただ、子供さんの親御さんの考えもあって、これはもちろん100%はなってませんが、あと高齢者に対しても1,000円ですか、毎年ぜひインフルエンザの予防接種してくださいというふうにお願いしてる立場の市役所のインフルエンザ予防接種に対する考え方がこんなもんだというふうに、もう議場の皆さんが少し茫然としたのではないかというふうに思います。

危機管理という点で、今、感染症の危機管理というのはもう常識なんですよね。例えばノロウイルスが発生しました。突然嘔吐しました。どうしようというようにいろんな機関にも当然していかなくちゃいけないんですね。

私は、実は12月議会のときにもこのインフルエンザのことは少し申し上げたことあるんですよ。そろそろ12月にもいつもより早く、11月からインフルエンザ発生しましたから、置賜管内で。大爆発の兆しがあるというのがありましたので、今、議会事務局というのは5名なんですね。そこで専門的な業種ですから、もし議会職員が5名のうち2人インフルエンザにか

かりました。ちゃんと議会運営できますかというようなことで12月に問い合わせたんです。そうしますとバックアップする、別の課から議会の職員の仕事できる者はまずいないと。ですからそういう体制はないんだと。じゃあ、議会運営できますかというふうに問うたんですね。例えば複数名インフルエンザでダウンした場合、そうしましたら何とかなるだろうというふうなこんなお答えだったんですよ。

ああ、そんなもんかなと思って、発症がなければよかったんですけども、そこで今後どういうふうに考えるかですけども、このままでいいのかと、こんなことでいいのかというふうに思うんですけども、やはり職業意識として、公務員としての、これは強制はできないかもしれませんが、当然市民に予防接種をお願いしている、あと高齢者、お子様と接する部署も多いわけですし、窓口にもどんどん市民がいらっしゃる。出先もそうですから、今後そういうのは自由にお任せしないで100%インフルエンザ予防接種できるような体制にするべきだと思いますが、総務参事、いかがですか。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務参事。

○齋藤環樹総務参事 委員おっしゃいますように、組織運営上のリスクの一つといたしまして、職員の健康管理、職員の心身両面の健康不安が業務に影響を及ぼすようなことは、これは避けなければならないと。広い意味での危機管理の範疇に含まれると考えております。

今回は季節性のインフルエンザということで、感染症予防法上では五類ということで、ちょっと低い分類で、今振り返ってみますと若干反省する部分もあったということも感じておりますので、インフルエンザに限らずこの想定されるリスクを検討して、先ほどおっしゃいましたように業務の執行に支障が生じるような事態を招かぬよう必要な情報収集に努めて、場合によっては行政事務で有効な対応策をとっているとい

うような事例等も参考にしながら必要な対応を検討して対応を図ってまいりたいと考えております。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 予算委員会ですので、総務管理費の340万円から行く方法しかなかったもので、総務参事に矢面に立っていただきましたけども、若干の反省どころじゃなくて、大いに反省していただいて、もうきょう管理職の皆さんそろってるわけですから、管理職で予防接種しなくて罹患したという方もいらっしゃるんですよ。何というていたらくでしょうかね。やはりそれはもう共有していただいて、公務員というのはどういう仕事かと、基本を忘れている。職業意識の欠如ですので、研修等も含めてやはりやっていただきたいなというふうに切望いたしまして質問を終わります。ありがとうございました。

○蒲生光男委員長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時35分 休憩

午後 1時00分 再開

○蒲生光男委員長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

なお、渡部秀樹委員から早退させてほしい旨の申し出があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

それでは、総括質疑を続行いたします。

梅津善之委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 順位7番、議席番号9番、梅

津善之委員。

○9番 梅津善之委員 3月定例会の予算総括最後ということで、お疲れのところと思いますが、最後までよろしくお願いいたします。

きのう南北中学校の卒業式がありまして、非常に毎年でありますけども、感動して涙が出てくるんですけども、ぜひ将来の子供たちに負担を残さないような思いを持って予算総括に臨んでまいりたいと思います。

通告に従いまして質問したいと思います。

まず1点目、公共施設整備計画の前期計画で示されている111億円のこれからということで、予算の2款総務費、1項の公共施設整備等事業ということで、新庁舎整備基本計画策定支援業務委託料と公共複合施設整備基本計画策定支援業務委託料ということでお聞きしたいと思います。

一般質問でも同じようなことを聞いておりますけども、さらには宇津木委員の予算総括でもありましたが、もう一度大きく4つということでお示しされている中身と111億円の中身を公共施設整備課長にお尋ねしたいと思います。

○蒲生光男委員長 桐生芳弘公共施設整備課長。

○桐生芳弘公共施設整備課長 お答えいたします。

整備計画で想定している概算の金額につきましては、市庁舎が30億円、子育て複合施設が23億円、長井小学校管理棟が6億円、それから市民文化会館として15億円と想定してるところでございます。

○蒲生光男委員長 9番、梅津善之委員。

○9番 梅津善之委員 111億円の中身ということで大きな4つということでありましたけども、足し算すると74億円となります。

そのほかの部分については具体的にあればということで公共施設整備課長にお願いしたいと思います。

○蒲生光男委員長 桐生芳弘公共施設整備課長。

○桐生芳弘公共施設整備課長 公共施設整備計画